

道路体系、交通体系を検討し、拡幅整備の必要性を検討したい。

### 川崎地区の交通安全対策を

**問 岩崎** 川崎地区の第六児童館と葦原中の間の道路は狭いため、子どもの通学に大変危険だ。学校や幼稚園があるので、交通安全対策として、スクールゾーンや道路を横断する所に、危険を知らせる回転灯を設置してはどうか。また、大型車の規制ができないか。  
**答** 関係機関と協議していきたい。



道幅が狭い葦原中学校脇の通学路

### さすが保育園近辺の交通安全対策を

**問 山口** 丸山の踏切から、さすがに保育園の区間は歩道がわずかで、歩行者が危険にさらされる状況が長期に続いている。交通安全の緊急対策と抜本的方針を早急に確立すべき。  
**答** 指摘の県道東大久保・ふじみ野線の箇所に、歩道の必要性は十分認識しています。県に要望いたします。

### 児童の交通安全対策

**問 高畑** 登校時の児童の交通安全上、スクランブル交差点の現状をどのように認識しているか。  
**答** 上野台団地の建て替え工事等により、登校時のスクランブル交差点が大変危険な状態であることは認識しております。現在予定されている県道の歩道整備が早期に実施されるよう、さらに県に要望していきます。

### 旧大井給食センター付近の狭い市道の拡幅を

**問 塚越** 防犯上問題がある

るので、地元としては旧給食センターは早く取り壊してもらいたい。車のすれ違いができないので、待避所を確保するなど段階的に道路整備を進めるべきだ。

### 旧給食センターに隣接の市道整備は

**問 田村** 旧給食センターと旧教職員住宅と隣接するクランクの市道についての方向性は。  
**答** 幅員が四メートルに満たない箇所が多いです。この道路の位置づけを踏まえ、土地利用も考え富士見市の意見を聞きながら段階的な整備ができるか検討していきたい。

### 藤間北野歩道橋の安全管理の強化を

**問 岸川** 藤間北野歩道橋を自転車で行くようにお願いしたい。藤間北野歩道橋の密室化等の防犯上の改善と安全管理の強化を。  
**答** 一月に川越市と協議しました。鉄具の修繕の見積もり提示が東武鉄道から来ま

### 藤間北野歩道橋の全面改修を

**問 岩崎** 藤間北野歩道橋は、東西を歩行者が横断するのに利用しているが、老朽化しているため、将来は全面改修が必要ではないか。  
**答** 川越市、東武鉄道と話し合っており、腐食部分の改修や、街灯の設置などを進めるようにしたい。

### 「やさしい道路づくり」とは

**問 五十嵐** 歩道整備に当たって、福祉的な面を考慮した「やさしい道路づくり」についてどのように考えているか。  
**答** 二十一世紀の時代は、バリアフリーの時代でもありません。今後、歩道の整備や改修を行なうときは、福祉関係団体などから意見を聞きながら、歩道の段差解消をはじめとするバリアフリー化を積極的に進めていく考えです。

### 上福岡駅北口の道路舗装整備を

**問 岩崎** 東武ストアと西友の間の通路は、雨が降ると

### 道路の舗装は計画的に

**問 小峰** 下水道工事完了後、舗装整備する際に水道管の点検整備をし、計画的に整備せよ。  
**答** 舗装本復旧について水道部と調整していきたい。

## 一般質問

### どこまでできるか 福祉の充実



水たまりが数箇所できる。そのため、利用者から「早期に舗装整備をして」との要望があるので促進を。

**答** 東武鉄道と話し合っています。協定書を結んで、年度内には整備を進めたい。

### 子ども医療費無料制度の年齢の拡大

**問 前原** 現在、市では小学校入学前までが無料。来年度、県でこの制度が実施されると、市の財政のみで行なわれている財政負担が少なくなる。その分で小学校卒業まで無料化を。  
**答** 六年生まで拡大すると、全体で三億一、〇〇〇万円必要になります。

### 子ども医療費の無料化を

**問 高橋** 子ども医療費無料化を段階的に推進してはどうか。  
**答** 市として対象年齢拡大は、子育て支援の一施策であること認識しています。財政負担も増加するため、現状では拡大は難しい状況です。



紙芝居大好き

### 小児救急医療体制の拡充

**問 足立** 小児科病院の不足が子育て不安を増大させている。県立小児救急医療センターを、ふじみ野市を含む西部医療圏に誘致することや、休日急患診療所での小児科対応の拡充など、医療面での子育て支援を図るべきだ。  
**答** センターの必要性を県に伝えます。休日診療所の小児科医不足は、内科医で対応しています。ほかに、県の小児

### リバースモーゲージ制度の導入を

救急電話相談・#8000については、広報などで周知します。

**問 五十嵐** 高齢者の自立した生活を支援するため、市独自の制度として長期生活支援資金貸付（リバースモーゲージ）制度を導入する考えはあるか。  
**答** 現在、当市におけるリバースモーゲージにつきましては、市社会福祉協議会を通して県社会福祉協議会の制度を活用しています。本年四月から生活保護法の要保護世帯に対する貸付制度が創設されました。市独自の制度は現在実施していませんが、生活スタイルの変化をとらえながら必要性を見守り、十分に検討を重ねていきたいと考えます。

### 七十五歳以上の後期高齢者医療の改善を

**問 新井** 市独自で低所得者への軽減策や、対象者に制度の周知をすべきだ。  
**答** 市独自の軽減策は考えていません。市民には、市報、パンフレット、説明会などで知らせます。

### 六十五歳医療費助成の復活を

**問 塚越** 昨年十二月に廃止された六十五歳以上の高齢者の医療費助成制度の復活をすべきだ。高齢者世帯が生計

### 公共下水道の整備を

**問 小峰** 川越街道の歩道拡幅整備に伴い、環境面、財政の効率化を考え、公共下水道の整備を検討されてはどうか。  
**答** 一度で終わらせることは、住民にとっても市にとっても望ましいことと考えております。西台地域に公共下水道の整備を進めており、接続は可能と考えられますが、市街化調整区域であり、都市計画、事業認可の変更など課題があり、今後、市の考え方や関係機関との協議を行ない、市民の意向に沿えるよう努力していきたい。